

つち なか
土 の 中 に
のこ
残されたもの
こうこがく そうぞうりょく
～考古学と想像力～

つち なか ほ すす
モグたんが土の中を掘り進んでいたら

カツンッとなにかにぶつかったよ。

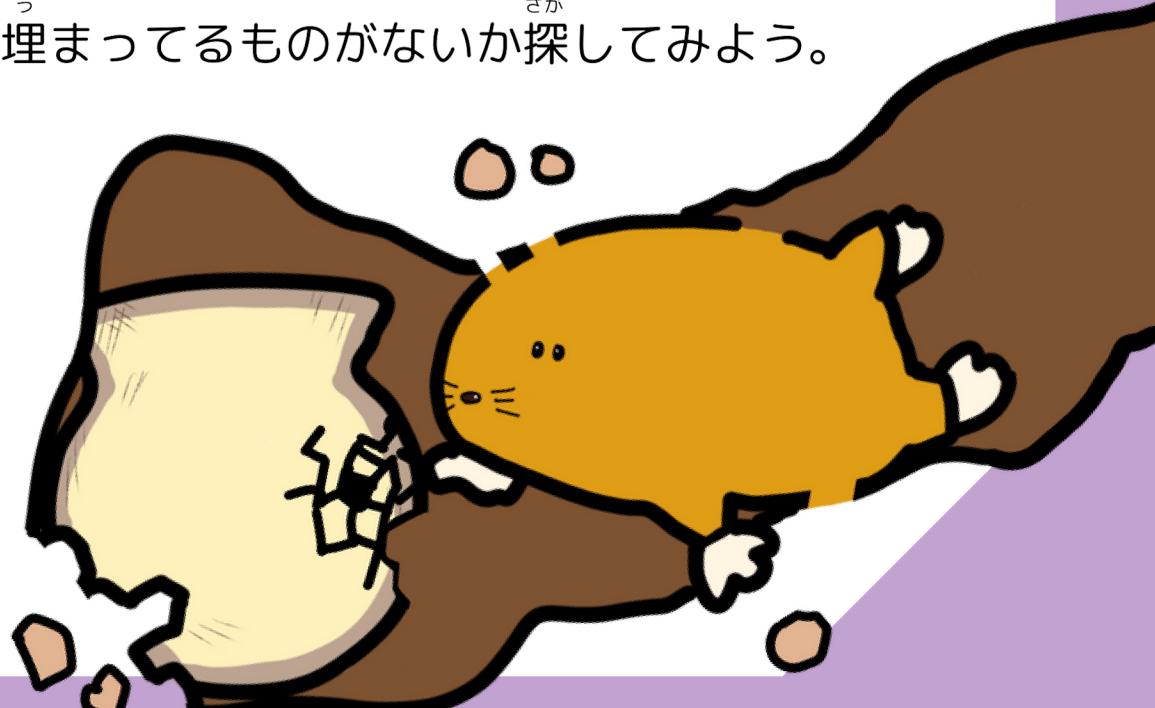
つぼ
あれ、これは壺みたいだ。

ふる つぼ
すごく古そうな壺だなあ。

つち なか
どうして土の中に

こんなものがあるんだろう？

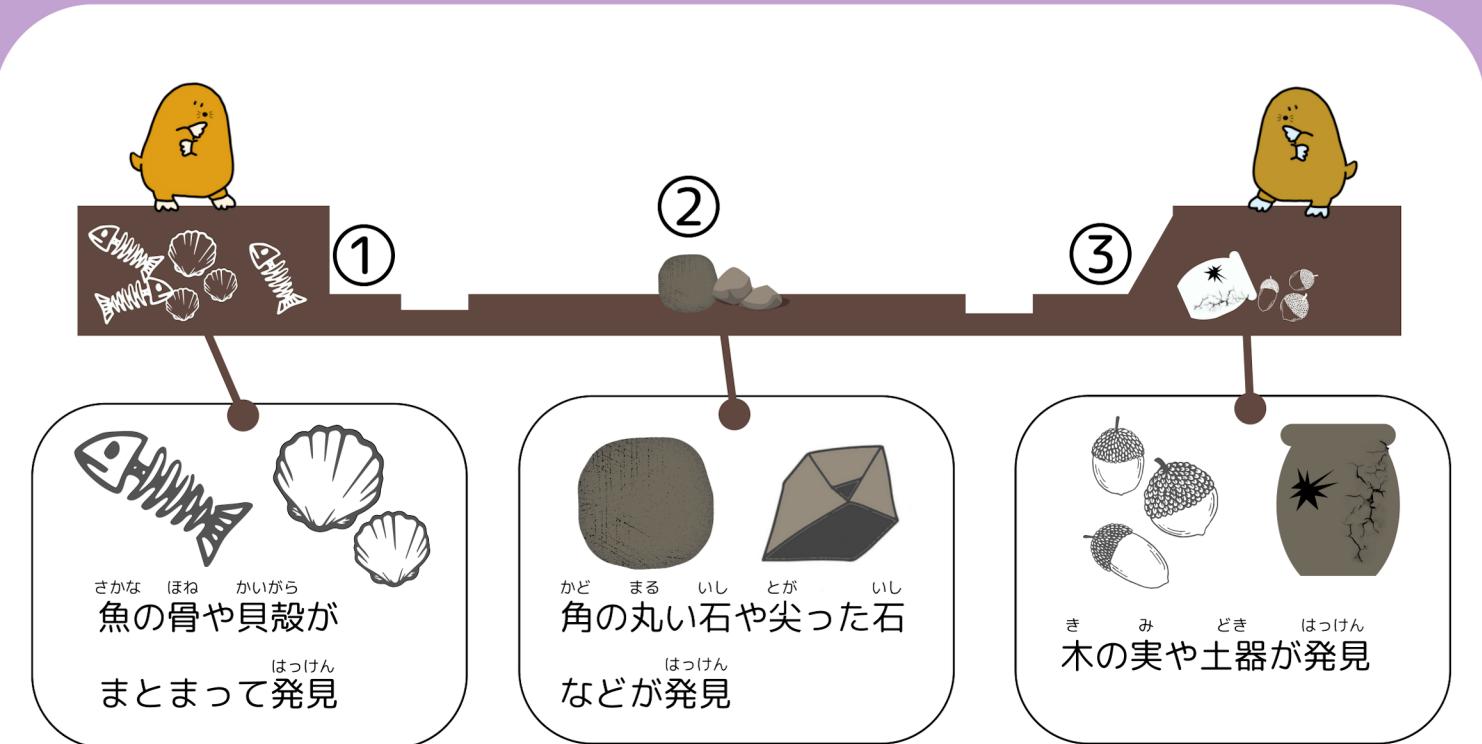
ほか う さが
他にも埋まってるものがないか探してみよう。



やってみよう！--その1--

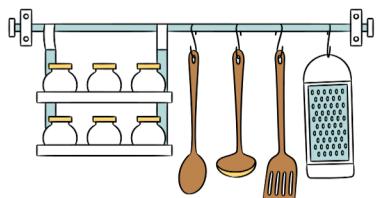
►►ここはどこだろう？◀◀

いせき じゅうきょあと いせき ばしょ したえ いぶつ
ここはモグ遺跡のとある住居跡。遺跡のそれぞれの場所から下の絵の①～③のモノ（遺物
いぶつ み ばしょ やくわり ばしょ かんが
※）が見つかったよ。この遺物が見つかった場所はどんな役割の場所だったんだろう？考え
られる場所を選んでみよう。紐づくのは1対1とは限らないよ。

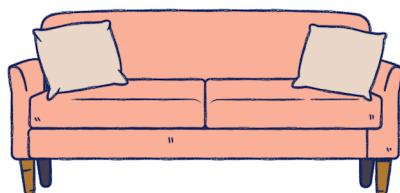


いぶつ え
※遺物の絵はイメージです

1:料理をするところ



2:ゆっくりするところ



3:寝るところ



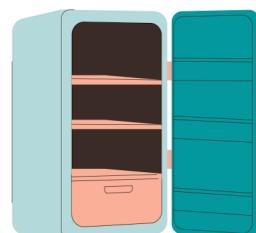
4:ゴミを捨てるところ



5:トイレ



6:冷蔵庫（貯蔵庫）



7:あそぶところ



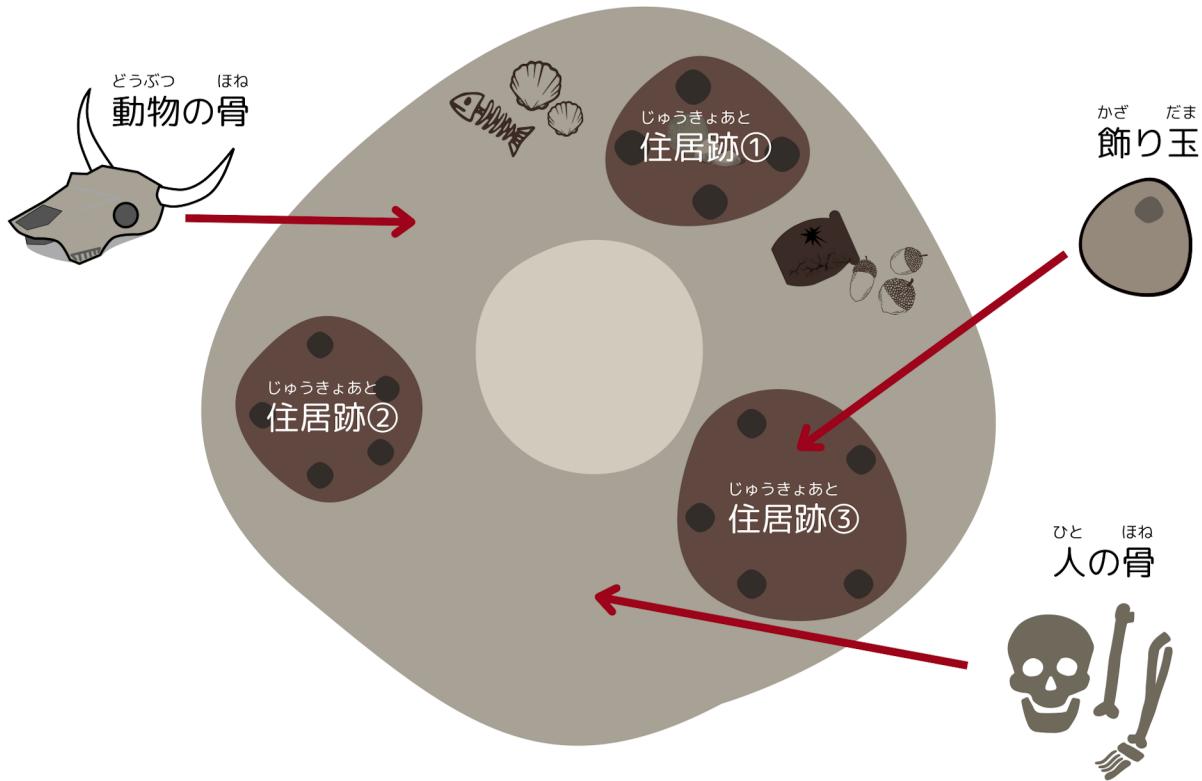
やってみよう！--その2--

せいかつ

▶▶どんな生活をしていた？◀◀

いせき じゅうきょ
モグ遺跡の住居にはどういう場所があったのかイメージできたかな？次の絵はやってみよう1の
じゅうきょあと ふく
いせき ぜんたいぞう
あた
み
いぶつ
かんが
モグ遺跡の全体像だよ。新しく見つかった遺物もあるみたい。やってみよう1で考
いせき ひと
せいかつ
えた遺跡のイメージとこれらをあわせて、モグ遺跡ではどんな人たちがどんな生活をしていたの
そぞう
か想像してみよう！

モグ遺跡 全体像



もっと知りたい！

こうこがく

ちがく

▶▶考古学と地学◀◀

「考古学」というとどんなイメージが浮かぶかな？土器や石器を探したり、恐竜の骨を発掘したりする姿が浮かぶかもしれないね。土器石器と恐竜の骨、どちらも埋もれた昔のものを発掘するという行動は同じだけど、実は学問としての分野は違うんだ。

土器や石器、人が暮らしていた痕跡から人の歴史を探るのが「考古学」、恐竜や植物の痕跡などから地球の歴史を紐解くのは「地学」の分野なんだよ。考古学と地学には似た部分もあるけど、注目する対象と目的が違うんだね。



考古学の対象時代

縄文時代や平安時代という時代の名前を聞いたことがあるかな？日本の人類の歴史において、それぞれの時期は○○時代という区分で分けられているんだ。日本に人類がやってきてからのおおまかな時代の流れは下の絵のようになっているよ。



鎌倉以降も○○時代をいくつも経て、今の日本は令和だね。考古学は人類誕生以降の歴史全てが対象だから、いつの時代区分が考古学の対象というのはないんだ。ずっと先の未来では、令和時代も考古学の対象になっているだろうけど、情報が発達しているから遺跡を掘ってという考古学とは違う学問が生まれているかもしれないね。

▶▶その1：ここはなんだろう？◀◀

ある住居跡で見つかったものは3種類。その見つかった場所がどんな役割を持っていた場所だったかイメージ出来たかな？答えの1例を挙げるよ。



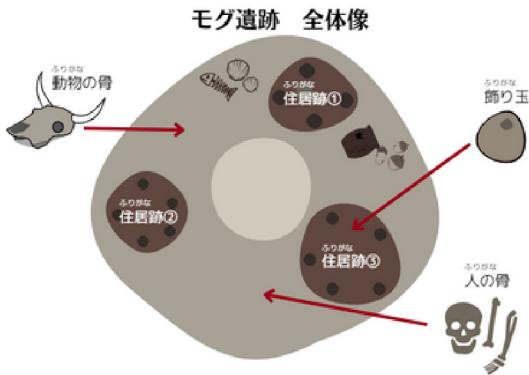
ゴミを捨てるところ

キッチン

冷蔵庫（貯蔵庫）

考古学は出土した物や状況、他の遺跡の情報や科学的な見解などいろいろなことを総合的に見て、「ここはこういう場所だったんだろう」というのを考えていくんだ。例えば①はゴミを捨てる場所だと思われているけれど、もっと決定的な何かが発見されたら、その考えが覆される可能性もあるんだよ。

▶▶その2：どんな生活をしていた？◀◀



モグ遺跡ではどんな人たちがどんな生活をしていったか想像できたかな？自分なりに遺跡からイメージして暮らしを考えてみてね。答えではないけれど、例えばこんなことが想像できるよ。

- モグ遺跡は住居跡が3つあるから、小さい村だったかもしれない。
 - 動物の骨がある ⇒ 食べた？飼っていた？野生動物が息絶えただけ？
 - 魚の骨がある ⇒ 食べた骨を捨てたのかも？海が近かった？お供え物？
 - 人の骨がある ⇒ 埋葬の文化があった？放置しただけ？
 - 飾り玉がある ⇒ 儀式で使われた？お洒落してたのかも？
- これだけで断定はできないけど、残された物から想像するいろんな生活が見えてくるね。

大人の皆さんへ

考古学という分野はあまり馴染みがないかもしれません、私たちの歴史を紐解くには必要不可欠な学問です。歴史で文系の分野と思われるがちですが実際は科学の力で解決することも多く、様々な分野の知識と情報を整理して繋ぎ合わせる力も大切です。固定概念に捕らわれず物や状況から考えてピースをつなげていく。考古学に限らず日常でも活きるスキルを身に着けていきましょう。

1) 考古学は口マン?

映画などで見て、考古学は口マンや冒険のイメージがあるかもしれません。まだ見ぬものを探し求めるという意味では口マンある分野かもしれません、実のところとても泥臭く地味な分野なのです。また遠い世界の話でもなく、身近なところでも頻繁に調査が行われています。



法律によって特定のエリアでは土木・建築工事を行う前には必ず届け出をして事前に発掘調査をしなくてはいけないと定められています。遠い国の話や遺跡として残されている場所の話ではなく、私たちの住む住宅地でも対象であれば発掘調査は行われています。考古学は宝探しではなく、人間の歴史を知る為のもの。夢や冒険とは逆の現実を突き止めにいくようなものなのです。

2) 文系だけど‥

歴史の分野だから科学や数学はわからなくてもいい‥という思いは捨てましょう。どの分野も表裏一体、それぞれの知識があってこそより深まっていくものです。例えば考古学では遺物の年代を判定する方法として放射性炭素年代測定法というものがあります。一定の半減期で減少する炭素14を測定するやり方です。このような科学的手法を用いることは珍しいことではないので、科学に対して苦手意識を持たないよう、様々な分野に触れ楽しく学ぶ経験を増やしていきましょう。

3) フィールドワークを大切に

考古学は学問の分野としては「歴史」に含まれますが、本をたくさん読めば深められるものではありません。考古学はフィールドワークがとても大事で、本物の遺物を見て触れて、遺跡や発掘現場の現地に行って自分で作業して、周りの地形や環境など自分で感じてこそわかることがあります。今は動画でなんでも見られてネットでたくさん情報が集められます。ですが、外に出て自分の足でリアルに体験することが何よりも大切です。（これは考古学に限った話ではありません。）

本やネットの情報、動画だけで満足せず、いろいろな場所へ足を運び「自身で体験する」ことを大事にしてください。自分で得た情報に勝るものはありません。五感を使ってリアルで体験した時の記憶や知識は、後から知識を増やすための土台となります。

学習と意識せず、体験する経験する機会を多くとるようにしてください。
きっとその後の学びに活きてくるでしょう。



- ・「正解」にこだわらないようにしましょう。また必ずしも正解は1つではありません。
- ・遊びながら考え、体験することが学びへの第一歩です
- ・子どもが導き出した答えを受け止め、どうしてそう考えたのか理由を聞いてみましょう
- ・答えがでなくても問題ありません。考えてやってみることが大切です
- ・大人も子どもも一緒に、コミュニケーションをとりながら新しい発見を楽しみましょう



このページは、**き**気になつたことや、**き**気づいたことを
メモするのに使つてね！



代々木の森の
STEAM体験広場

企画：国立青少年教育振興機構
制作：チームTan.Q
（合同会社そらときカンパニー）
（合同会社etariya-oh）

当コンテンツの一部または全部を無断で転載、転用することはご遠慮ください。
学校、団体などで当コンテンツを活用する場合はご連絡ください。

■ 内部用資料 ■

▼対象者

小学校低学年～中学年

間違い探しや物語を作るような感覚。小さい子でも体験できる形のワーク
年齢が上がり知識がえると、また違った想像ができるようになるので全年齢で実施可

▼プログラム概要

考古学の分野。「歴史」自体は文系分野だが、それを紐解いて調査検証していく作業は科学が必要不可欠である。

様々なものから考察し、当時の環境や生活スタイル、どのような人が住んでいたのか等、探し出していく。文章ではなく残された物や跡、状況から当時の様子を推察していく。想像力と情報を読み取る力、組み立てる力。

※あくまでもモノから環境や生活を想像・考察するというプログラム

ワークショップなどで行う場合は、実際の物を観察や比較などして考えていく形

▼プログラム（ワーク）内容

①ここはなんだろう？

もぐ遺跡の1住居跡。見つかった物やその配置から、そこがどのような役割を持つものだったのかを考える。何も選択肢がないと難しいので、選択肢から選ぶ方式。高学年の場合は、選択肢をなくしてもいい。

②どんな生活をしていた？

もぐ遺跡全体像と追加の遺物から、どのような生活、どんな人たちが、どれくらいの人数が、どういうことをしてそこで生きていたのか、等を自由に想像する。

どちらも正解はない。

考古学（歴史）は、実際にその場面を見ることが出来ないので、まだまだわからないことが多い、「現時点でこうだろうと言われている」状態。なので正解不正解もない。

様々な遺物や遺跡などから推測すること、いろいろな情報をかけ合わせて考えること、他との比較などをすることで答えを探し求めていく。

▼ポイント

考えて想像する

あまり学校の勉強では触れることの少ない考古学の分野を楽しむ